

安息日・福音・現代社会

ルカの福音書14章1-6節
2013,1,27 HKJCF

I 概要

序)①イエス様のエルサレムの旅②パリサイ人との緊張関係③イエス様の主張

- I 人々の注目 1
- II 律法主義者のジレンマ (1),(2) 2-6
- III 現代社会への適用

I 人々の注目

- 1、サンヒドリン議員(パリサイ派)の招待
 - 2、人々の注目
 - 3、水腫の病人
- ⇒直訳:「見よ、水腫の人が彼の前に」
パリサイ人のワナを主はチャレンジ(病人への福音の宣言とみわざ)へ

II 律法主義者のジレンマ(1)

- 1、主の問い(1)正・誤,善・悪 マルコ3:4
- 2、律法主義者のジレンマ(1)
:律法主義は問題を解決しない
- 3、主のいやし①抱く②いやす③家に帰す
⇒全人的回復
⇒主は妥協(平日のいやし)せず、安息日の表面的解釈にチャレンジされた

III 律法主義者のジレンマ(2)

- 1、主の問い(2)
 - ①正・誤,善・悪(律法主義)⇔功利主義
 - ②律法主義→いのちの優先性(福音)
 ⇒妥協→福音による解決(律法→福音)
- 2、律法主義のジレンマ:律法主義には救いが無い
- 3、沈黙の意味①ジレンマ②プライドによる反発③殺意(ヘロデ党と野合)マルコ3:6

IV 適用

- 1、業績主義:成長のジレンマ→格差社会
- 2、公平主義:平等のジレンマ→財政危機
- 3、福音主義:全人類の全人格的回復→教会の使命→神の方法は「神の人」造り
創造→墮落→救済⇒信仰→新創造
「主よ、私をキリスト中心に生きる、福音による問題解決者として用いてください」
→二者択一からキリスト中心の解決へ